

DEBUT 首長

秋田県横手市長 高橋 大氏



たかはし・だい 1976年秋田県横手市生まれ。98年秋田経済法科大（現ノースアジア大）卒。都内の商社に入社。2004年旧十文字町議。05年横手市議に初当選、2期目で辞職し13年10月に横手市長選に初当選。37歳。

農業振興へ消費者に食を提案 連携で県内巡回型の観光を

横手市 秋田県南部に位置する。2005年に旧横手市と7町村が合併、人口約9万5000人の県内第2の市。有数の豪雪地帯で、冬の「かまくら」は有名。主要な産業はコメ、果樹などの農業。

——今年も豪雪の被害が出た。

首都圏でも大雪被害が出たが、横手市は4年連続の豪雪だ。除雪作業や建物の損壊で高齢者が死傷する例もある。リンゴやブドウなど果樹被害も春に向けて被害状況が明らかになってくる。除雪費用が自治体の財政に負担になっている。個人が業者に依頼する場合、年に2、3回となれば30万円以上かかる。年金生活の高齢者らには重い負担だ。国には、災害であるという認識で財政的な配慮を要請していきたい。

——合併した市町村間での均衡ある発展を掲げている。

市町村合併は行政コストの削減が主体だ。学校の統廃合、施設の廃止などは人口の減少している地域が先行するため、不公平感を感じることがある。旧町

村の庁舎にある窓口機関の地域局に予算の一部を独自判断できる権限を移譲するなどして住民からの要望に細かな配慮をしていきたい。

均衡ある発展を考えるうえで、主要産業である農業の振興が欠かせない。農業は農業従事者やその親類、配送、販売などを含めると4分の1の世帯が何らかの形で関わりがある。市と農協が連携して具体策を考えたい。県の試験場などの持つ情報を伝えたり、首都圏などの消費者と農家の交流を図ったりするなど黒子として働いていく。消費者ニーズに合う農産物が実際に栽培できるか実験農場で試すこともやっていく。消費者に向けてレシピなどの提案もしていきたい。

街づくりに携わる人の中で、実働部隊となっている人らとは同年代。率直に意見交換しながら施策を進めていきたいと思う。

——増田地区の蔵など観光PRは。

増田地区が国の伝統的建造物群保存地区に選定された。建物の保存のための予算を計上した

ほか、ハード面の整備を徐々に進めていく。ただ、まだ知名度は高くはない。なぜ増田地区に豪華な蔵が集積しているのかといった歴史的なストーリーを学ぶことを地元から始めたい。また、県内には武家屋敷とサクラで知られる角館や田沢湖、乳頭温泉などの観光資源がある。こうした地域と連動してPRしていきたい。県内の観光地を巡回してもらい、滞在時間を長くして消費を増やし街の活性化につなげたい。

今年の「かまくら」では、かまくらを各国のブースに見立てた国際交流イベントを初めて実施して、インドネシアやフィリピンなど6カ国・地域の大使や政府観光局の職員らに参加してもらった。今後も継続することで、東南アジアなどを中心に雪に縁のない国の人らに観光をPRするきっかけになると思っている。

（聞き手は
秋田支局長 曾我 真粧巳）